

「群馬県のムスリムコミュニティについての調査」

申請者：総合政策学部 4 年 大野木雪乃

指導教員：総合政策学部教授 奥田敦

1. 研究目的

卒業政策として「共生関係構築へのヒント ー群馬県のムスリムコミュニティの日常から考えるー」というテーマで 2016 年夏から群馬県内に住まうイスラーム教徒や彼らとともに生活をする日本人へのインタビュー調査を進めてきた。

今、世界では特にイスラーム世界と非イスラーム世界の共生関係の構築が、国家レベルにおいても人間関係のレベルにおいても喫緊の課題とされている中、外国人住民の増加に伴い、日本でもイスラーム教徒は増加していて、2014 年までに 80 ものモスクが全国に建てられている。私が生まれ育った群馬県にも、5つのモスクが誕生していた。彼らはそこで、周りの地域住民と共生しているのだろうか。できているとしたら、そこにはどんな共生関係が構築されているのだろうか。地域住民はその変化をどのように受け止めているのだろうか。

抗う間もなく進むローカルな場所のグローバル化、その環境の変化に向き合いながら日々暮らす人々の姿を記録するとともに、ムスリムとの平和裏の共生関係構築へのヒントを見出すことが本研究の目的である。

2. 実施概要

イスラーム教徒にとって生活の一部となっているのがモスクの存在である。現在群馬県には東毛地区に伊勢崎モスク（伊勢崎市）、境町モスク（伊勢崎市）、桐生モスク（桐生市）、クバモスク（館林市）、サラマットモスク（館林市）の5つのモスクがある。2016 年夏以降、このモスクを訪ねたり、モスクで行われる活動に参加することを通し、その地域で生活をしているイスラーム教徒の規模や地域環境について調査を進めてきた。

調査を進めるうちに、彼らが学校や役所などを通じて、地域住民と多少なりとも関わりあいながら生活している様子もわかってきた。そこで、より多角面から現状を知るために、周辺の公立小学校や隣の栃木県の小山市に新設されたインターナショナルスクール、行政にも視野を広げ、インタビュー調査を行った。

3. 成果報告

今回、本助成金に申請させていただいた分の調査は、以下の日程で行った。

12/10（土） 伊勢崎市「外国人コミュニティコーディネーター養成講座」参加

12/11（日） 桐生市 桐生モスク

12/12 (月) 小山市 コルドバインターナショナルスクール調査

12/19 (月) 〃

12/26 (月) 〃

1/9 (月) 前橋市 群馬県庁

伊勢崎市で開かれたボランティア団体による講座に参加し、外国人受け入れのボランティア活動に積極的に携わる方に直接お会いし、話を伺うことができた。当該ボランティア団体の活動の規模や、活動の方針の変遷、ボランティア活動を行う人たちの意識の変化についても、詳細に伺うことができた。このボランティア活動の代表を通じ、伊勢崎市内の小学校のグローバル化の現状や、それぞれの学校のムスリム児童への対応についても知ることもできた。

桐生モスク訪問では、このモスクに集まるのは付近の大学への留学生が中心であること、その関係で県内の他のムスリムコミュニティとは異なる管理体制がとられていることや、周辺の地域環境も他のモスクとは違っていることがわかった。

ムスリムによって2014年に設立されたインターナショナルスクール、コルドバインターナショナルスクールへは、1ヶ月半ほど、週に1度のペースで訪問を続けたことで、教師の皆さんや生徒たちともよい関係を作ることができた。この関係づくりによって、子どもたちから学校に対する考えや、日本での暮らし、移住する前の場所での暮らし、将来について考えていること等、多様な項目についての意見を聞くことができた。またボランティアとして授業の手伝いをしたことで、授業カリキュラムや教育環境についての問題点にも気づくことができた。

これら調査で集めた情報は、卒業制作の執筆において非常に有益な情報であったと感じている。今回の調査で得た情報も活かし、意義のある制作を行いたい。

4. 謝辞

本調査の実施に際し、支援していただいた湘南藤沢学会研究助成基金に感謝申し上げます。



(上)コルドバインターナショナルスクールにて、生徒たちの様子 (左)校舎